

調査レポート

グラフで見る関西経済(2013年9月)

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。生産は昨年11月を底に緩やかに持ち直している。輸出は、7月の実質輸出が3ヶ月ぶりに減少したが、均してみると持ち直しの動きがみられる。また、完全失業率、有効求人倍率など雇用環境も緩やかに持ち直している。一方、賃金は弱含んでいるが、個人消費は緩やかに持ち直している。設備投資は、一部調査で今年度の増加を見込むものもあるが、実績の数字をみると減少している。住宅投資は、金利先高感、来年の消費税率アップの影響から緩やかに増加している。公共投資は、平成24年度補正予算による投資もあって増加している。関西経済の先行きは、海外経済が緩やかに回復する中で、持ち直しが見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗		↗	輸出	↗		↗
個人消費	↗		↗	輸入	→		→
住宅投資	↗		↗	生産	↗		↗
設備投資	↘		→	雇用	↗		↗
公共投資	↗		↗	賃金	↘		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～中国などアジア経済の回復の動きと同地域向け輸出の動向、米国の金融政策の動向
- ・企業活動～電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイスなど電気製品関連の生産動向、円安と株高が一服する中での企業の収益動向
- ・政策～消費税引き上げ判断後の安倍政権の政策運営と日銀による大胆な金融政策の効果
- ・家計～消費税率引き上げ前の前倒し消費の動向、大阪等での商業施設新規開店の影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 塚田裕昭

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2

TEL: 03-6733-1070

【各項目のヘッドライン】

項目	8月のコメント	9月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	3~4
2. 生産	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	5~6
3. 雇用	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	7~8
4. 賃金	弱含んでいる	弱含んでいる	8~9
5. 個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9~11
6. 住宅投資	緩やかに増加している	緩やかに増加している	11
7. 設備投資	減少している	減少している	12~13
8. 公共投資	増加している	増加している	13
9. 輸出入	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	14
10. 物価	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	15
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加	16

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11. 金融、12. 倒産を除く）

（*）参考資料：「グラフでみる景気予報」 → <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
1. 景気全般

雇用が緩やかに持ち直してきて、全般的に緩やかな持ち直しの動きが認められるようになった

2. 雇用

失業率の低下、就業者数の増加、有効求人倍率の上昇が続くなど、雇用情勢は緩やかに持ち直している

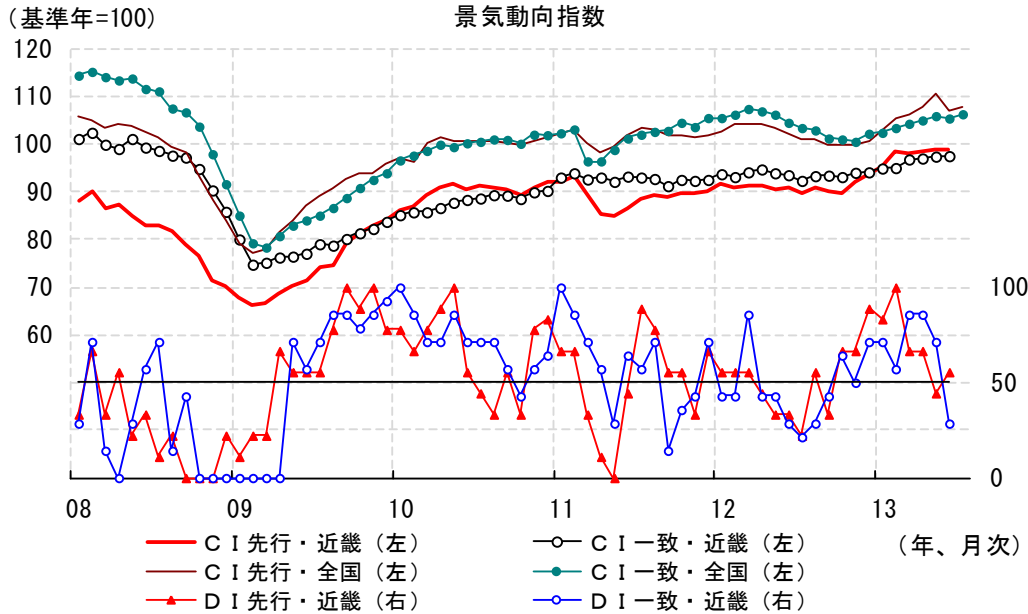
3. 【主要経済指標の推移】

経済指標		12 4-6	12 7-9	12 10-12	13 1-3	13 4-6	13 3	13 4	13 5	13 6	13 7	13 8
景気全般	景気動向指数(近畿) C I 先行指数(05年=100)	90.9	90.3	91.9	97.3		98.2	98.4	98.9	98.9		
	C I 一致指数(")	94.1	93.1	93.8	95.7		96.9	97.1	97.5	97.6		
	D I 先行指数(%ポイント)	37.0	37.0	74.1	83.3		66.7	66.7	44.4	55.6		
	D I 一致指数(")	38.1	31.0	61.9	71.4		85.7	85.7	71.4	28.6		
	景気ウォッチャー調査(近畿) 現状判断D I (")	48.2	44.5	44.7	57.1	57.7	61.3	59.6	58.7	54.9	53.2	51.4
	先行判断D I (")	48.7	44.5	48.1	60.6	57.1	60.7	59.6	58.1	53.5	52.9	52.3
	日銀短観(近畿) 業況判断D I 製造業(%ポイント)	-10	-9	-15	-15	-8	-3 <9月予想>					
	非製造業(")	-8	-9	-12	-9	-3	-2 <9月予想>					
	法人企業統計(近畿) 経常利益 製造業(兆円)	0.4	0.2	0.6	0.5	0.5						
	非製造業(兆円)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3						
生産	鉱工業生産(近畿)(季節調整済、前期比・前月比)	-0.6	-2.7	-1.1	2.0	1.0	1.4	1.0	0.5	-1.7	0.6	
	鉱工業出荷(近畿)(")	-0.7	-3.2	-0.2	1.8	0.7	0.3	1.4	-0.2	-1.4	0.6	
	鉱工業在庫(近畿)(")	2.1	-0.4	-2.3	-1.9	0.9	1.2	1.3	-0.9	-0.1	3.4	
	鉱工業生産(近畿) 鉄鋼(")	-3.8	-2.2	-6.1	10.4	0.1	-0.4	2.3	0.1	-10.5	6.8	
	金属製品(")	7.5	-2.9	4.3	-9.0	6.7	6.1	2.0	0.0	1.1	0.5	
	一般機械(")	-5.5	5.0	-6.8	4.5	-6.4	-5.9	-3.4	10.6	-1.9	-1.5	
	輸送機械(")	1.4	-9.3	-10.4	10.7	5.4	3.3	7.4	-5.4	-3.8	1.7	
	電気機械(")	0.7	-0.7	-3.0	5.1	1.5	6.3	-7.3	11.7	-5.1	0.8	
	化学(")	2.2	-4.0	-0.5	3.3	-1.9	-1.4	-1.2	-1.7	2.9	4.2	
	大口販売電力量(関西)	-4.0	-5.8	-6.2	-5.5	-4.3	-3.9	-5.1	-3.9	-3.8	0.8	
雇用	完全失業率(近畿)(%)	5.2	4.8	4.7	5.0	4.3	4.9	4.3	4.4	4.1	3.8	
	就業者数(近畿)(万人)	977	979	989	973	991	962	989	996	987	994	
	雇用者数(近畿) 建設業(前年差、万人)	0	2	0	4	-4						
	製造業(")	2	2	8	-4	0						
	運輸業、郵便業(")	-2	2	-1	-1	2						
	卸売業、小売業(")	1	-7	7	-2	6						
	医療、福祉(")	1	9	10	15	3						
	サービス業(医療、福祉以外)(")	-6	8	-2	-12	1						
	有効求人倍率(近畿)(季節調整済、倍)	0.74	0.76	0.77	0.85	0.90	0.83	0.85	0.86	0.88	0.89	
	新規求人倍率(近畿)(")	1.22	1.24	1.26	1.35	1.44	1.37	1.37	1.37	1.46	1.41	
賃金	現金給与総額(近畿)	-1.7	0.0	-2.1	-1.0		-0.9	-0.2	-0.9			
	所定内給与(近畿)	-0.5	-1.2	-1.5	-1.1		-1.4	-0.4	-0.8			
	所定外給与(近畿)	3.7	-0.8	-5.3	-5.7		-3.7	-1.9	-3.6			
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入(近畿) 勤め先収入	1.9	-6.5	-3.4	-0.9	7.5	3.8	4.8	7.6	9.2	23.2	
	定期収入	1.7	-1.7	-2.4	-2.2	2.2	-1.2	-2.1	3.7	5.2	9.9	
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出(近畿)	-3.0	1.9	-1.1	3.1	7.0	9.7	3.9	9.3	8.1	-3.7	
	大型小売店販売状況(近畿) 百貨店+スーパー	-2.4	-2.4	0.4	-0.5	0.8	3.8	-1.9	-0.4	4.7	-1.5	
	コンビニエンス・ストア販売状況(近畿)	1.4	-1.8	-1.7	-1.7	0.0	0.2	-2.4	-0.8	1.2	0.0	
	家電販売額(近畿)	-29.6	-17.3	-8.9	-7.0		-3.2	-8.6	-0.5	12.6	-13.8	
	新車登録台数(近畿)	66.0	14.8	-4.3	-10.3		-13.8	4.7	-6.3	-10.6	-10.0	
	消費者態度指数(近畿、一般世帯)(原数値)(※)	39.4	39.1	38.9	42.9	44.8	43.9	43.9	46.0	44.5	43.3	43.4
	住宅投資	140.2	127.5	129.7	130.1	149.1	121.6	134.8	168.4	144.0	143.4	
設備投資	法人企業統計季報(近畿) 設備投資 製造業	27.4	-11.3	-10.6	-28.7							
	非製造業	-16.1	0.2	-0.9	6.1							
	企業立地件数(近畿)(件)	-	-	-	-	-	21		21			
公共投資	21.5	8.5	30.3	-8.3	10.1	-20.4	-0.7	16.0	17.8	37.2	20.8	
輸出入	実質輸出(近畿)(季節調整済、10年=100)	99.7	99.3	97.6	92.9	97.2	96.4	94.5	97.0	100.1	94.5	
	通関輸出(大阪税関) 輸出総額	-7.9	-7.2	-3.7	-0.2	7.6	2.2	4.1	11.1	7.9	10.6	15.7
	実質輸入(近畿)(季節調整済、10年=100)	114.3	117.6	114.5	110.9	111.2	110.7	109.0	111.3	113.4	115.4	
	通関輸入(大阪税関) 輸入総額	2.1	-0.3	1.0	6.6	8.5	2.4	10.1	8.3	7.2	19.8	11.2
物価	消費者物価指数(近畿) 生鮮食品を除く総合	0.0	-0.1	-0.3	-0.6	0.0	-0.6	-0.5	0.1	0.4	0.6	
	食料及エネルギーを除く総合	-0.5	-0.5	-0.6	-0.9	-0.4	-0.9	-0.6	-0.4	-0.2	-0.2	
金融	国内銀行預金残高(近畿)	0.8	1.2	1.4	2.3	2.8	2.5	2.5	2.9	3.1	2.2	
	国内銀行貸出金残高(近畿)	0.1	0.6	1.0	1.0	0.7	0.8	0.7	0.8	0.6	0.4	
倒産	倒産件数(近畿)	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	-17.7	-5.2	-7.0	-19.1	-24.0	-17.4

(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%
消費者態度指数は、13年3月までは訪問留置調査、4月以降は郵送調査の値。

1. 景気全般 ～緩やかに持ち直している

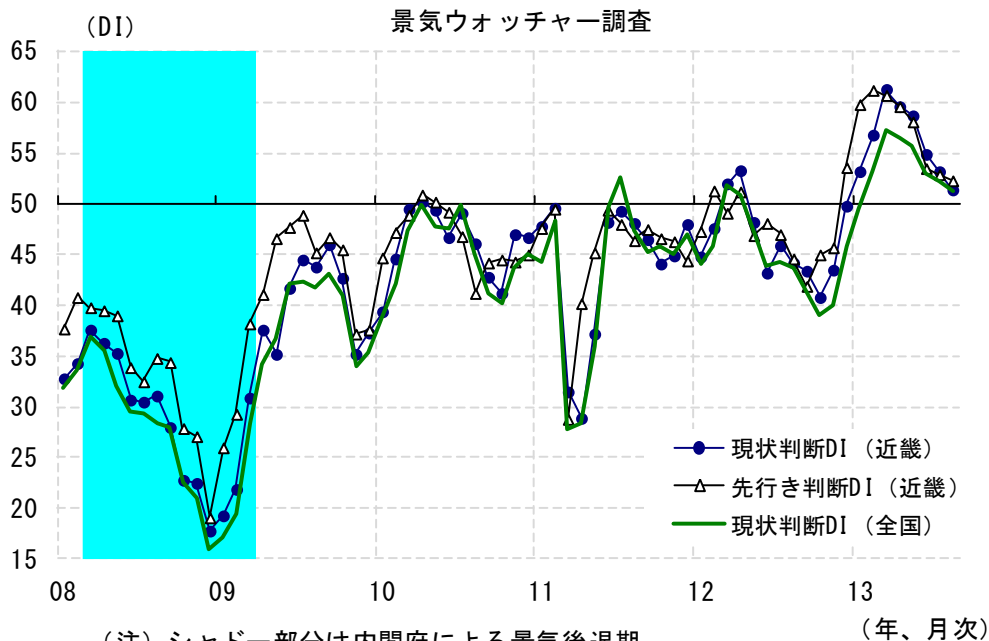
○6月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は97.6と8ヶ月連続で上昇した。採用7系列のうち、有効求人倍率、百貨店販売額、ガス消費量の3系列がプラスに寄与した。一方、6月のC I先行指数は98.7と3ヶ月ぶりに低下した。採用9系列のうち、鉱工業在庫、住宅着工戸数、新車販売台数、消費者態度指数の4系列がマイナスに寄与した。



(注) C I・近畿の基準年は2005年、C I・全国の基準年は2010年。

(出所) 大阪府「近畿地区景気動向指数 (C I・D I) の動き」、
内閣府「景気動向指数」

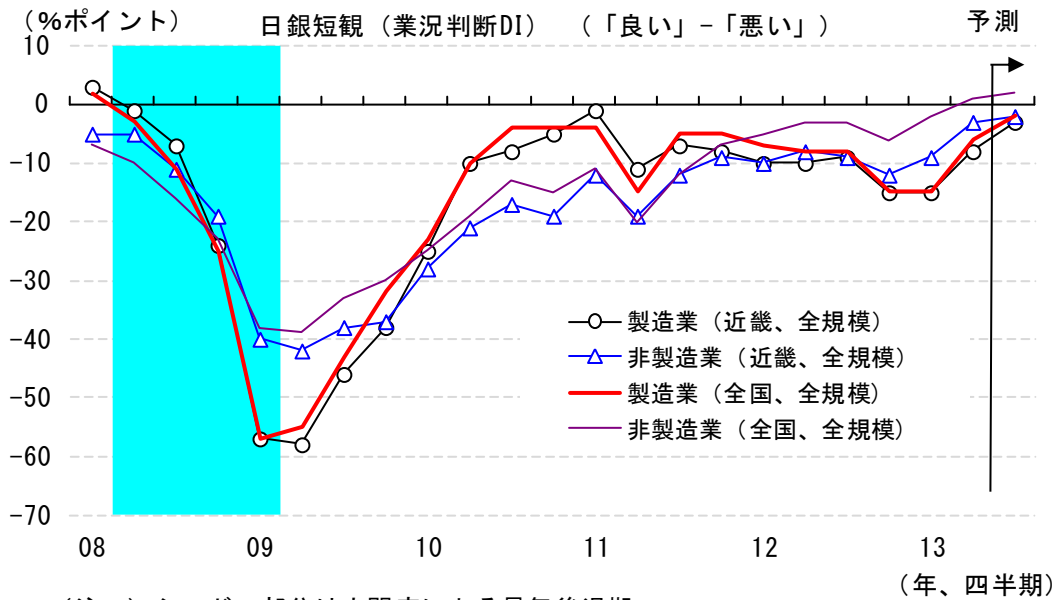
○景気ウォッチャー調査によると、8月の近畿地区の現状判断D Iは前月差-1.8ポイントの51.4と5ヶ月連続で低下したが、景気の横ばいを示す50を上回った。家計動向関連D Iは、同-3.2ポイントの48.8と5ヶ月連続で低下した。先行き判断D Iについては、同-0.6ポイントの52.3と6ヶ月連続で低下した。家計動向関連の先行きは、同-0.5ポイントの49.9と5ヶ月連続で低下した。



(注) シャド一部分は内閣府による景気後退期

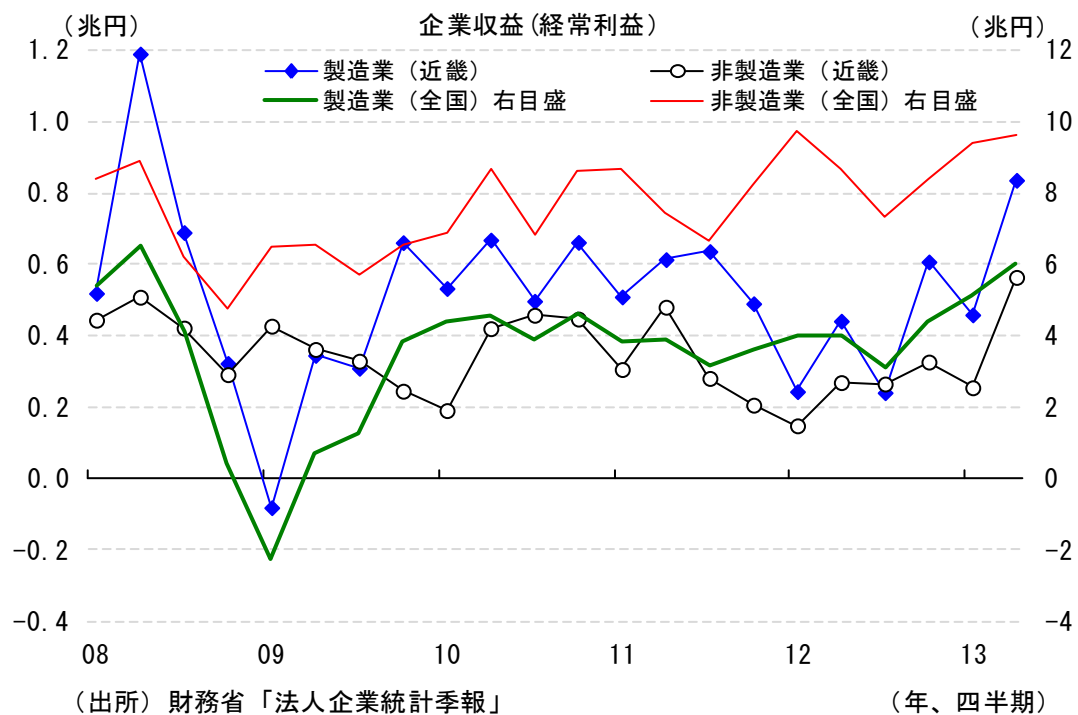
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

○日銀短観6月調査によると、近畿地区の業況判断DI（「良い」－「悪い」）は全産業（全規模）で－6と3月調査比で6ポイント改善した。製造業（全規模）は－8と7ポイント改善し、規模別では大企業、中小企業、業種別では電気機械などで改善した。非製造業（全規模）は－3と6ポイント改善した。先行きについては、業種別に見ても規模別に見ても、一般的に改善が見込まれている。



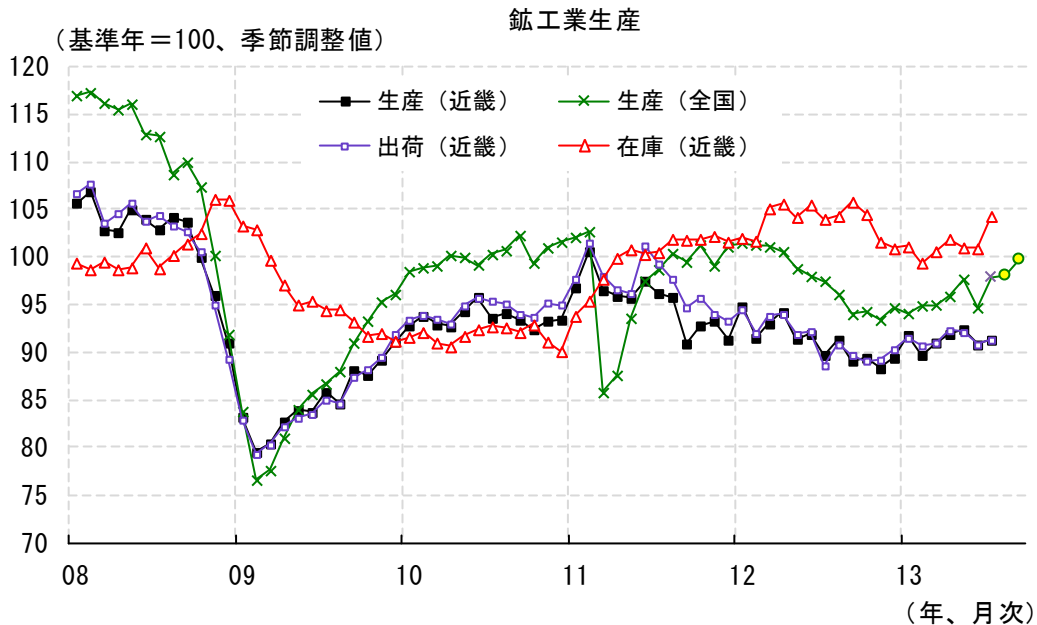
(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期
 (注2) 2009.04調査期以前は旧ベース、2010.01調査期以降は新ベース

○2013年4～6月期の近畿地区の大企業の経常利益（全産業）は、前年比＋97.0％と大幅に増加した。業種別にみると製造業は同＋89.4％、非製造業では同＋109.5％となった。前年比での大きな振幅は一部大手企業の決算動向が影響しているものと考えられる。日銀短観でみると、今後の経常利益は12年度の大幅減（全産業・全規模で同－10.7％）から13年度は大幅増（同＋30.5％）が見込まれている。

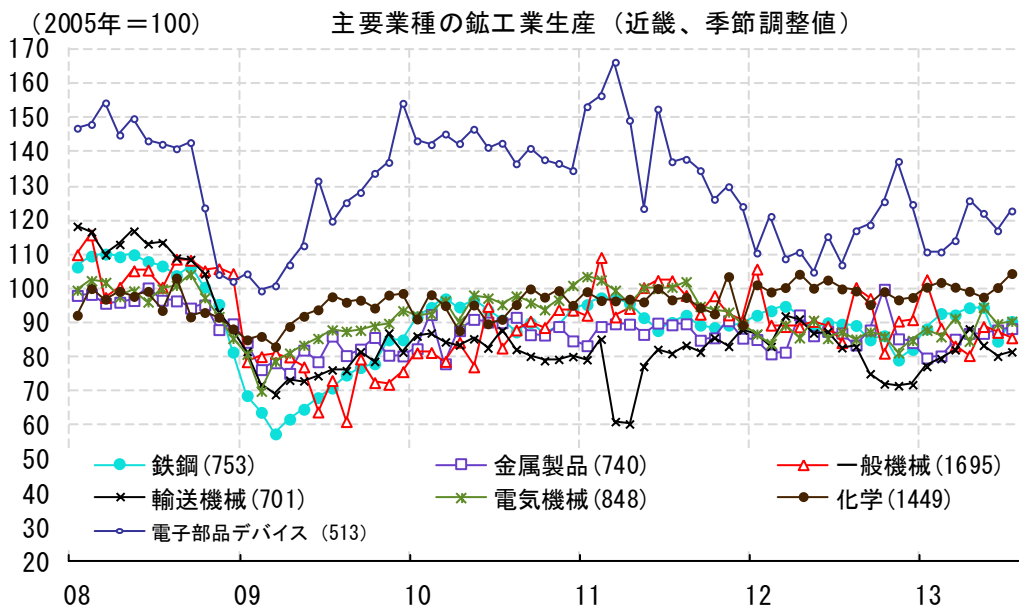


2. 生産 ～緩やかに持ち直している

○7月の近畿地区の鉱工業生産は前月比+0.6%と2ヶ月ぶりに増加した。一般機械、窯業・土石、情報通信機械などが減少したが、化学、鉄鋼、電子部品・デバイスなどが増加した。関西の生産は昨年11月を底に緩やかな持ち直し基調が続いている。今後も、世界経済の緩やかな回復が続く中、緩やかながら持ち直しが続くと思込まれる。

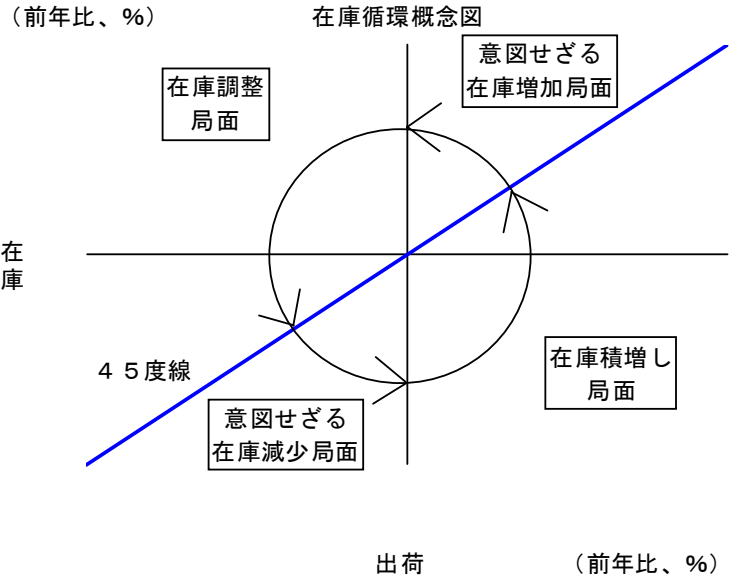
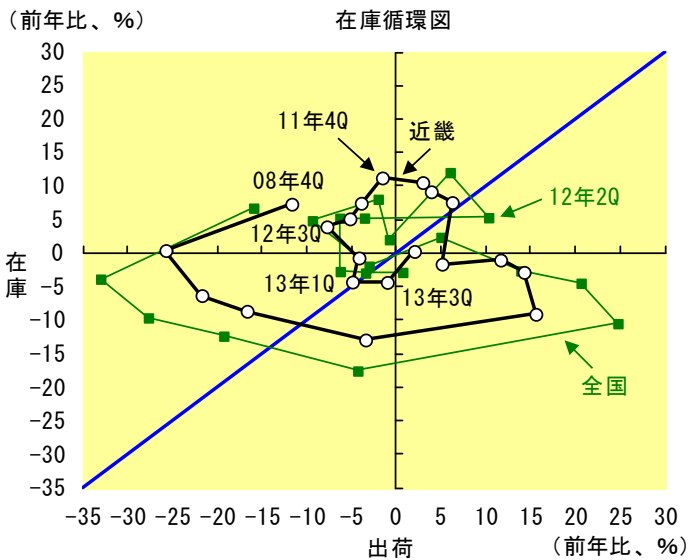


(注) 生産(全国)の「○」は製造工業生産予測調査結果から試算した予測
 全国の基準年は2010年、近畿の基準年は2005年
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



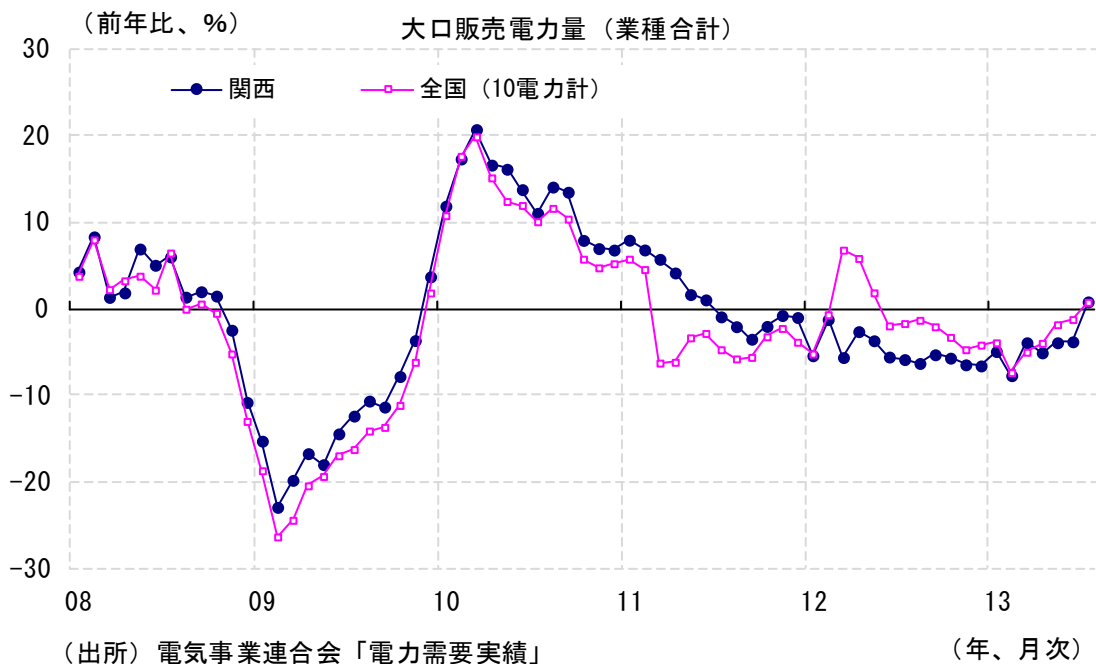
(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウェイト(鉱工業=10,000)
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

○7月の近畿地区の鉱工業出荷は前月比+0.6%と3ヶ月ぶりに増加した。金属製品、一般機械、情報通信機械などが減少したが、化学、石油・石炭製品、鉄鋼などが増加した。鉱工業在庫は、前月比+3.4%と3ヶ月ぶりに増加した。鉄鋼、石油・石炭製品、精密機械などが減少したが、電子部品・デバイス、金属製品、一般機械などが増加した。



(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
直近13年3Qの出荷、在庫は7月の前年比
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

○7月の関西電力の大口販売電力量 (契約電力500kw以上の産業用需要) は、前年比+0.8%と25ヶ月ぶりに前年実績を上回った。業種別にみると、製造業では主要11業種中、化学、窯業・土石、非鉄金属、機械製造を除く7業種で前年実績を上回った。また、非製造業では水道業が前年を下回ったが、鉄道、その他が前年実績を上回った。

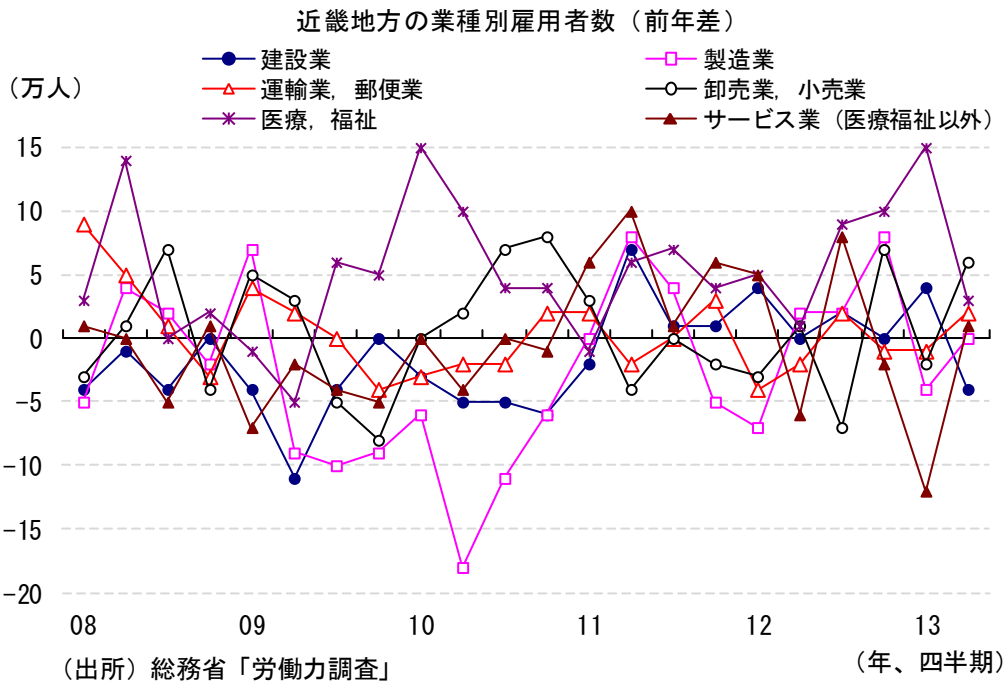
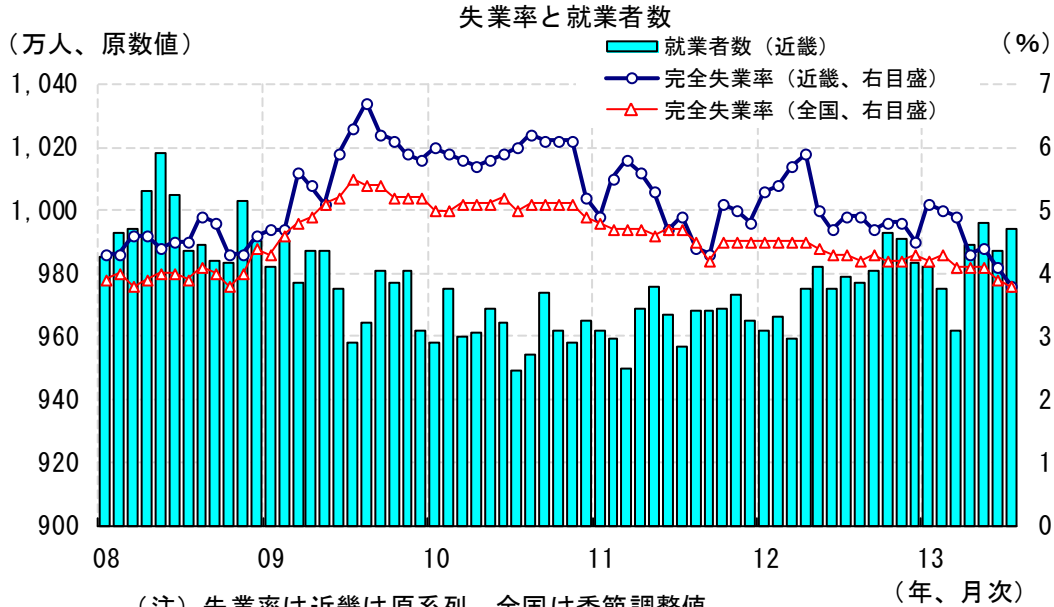


(出所) 電気事業連合会「電力需要実績」

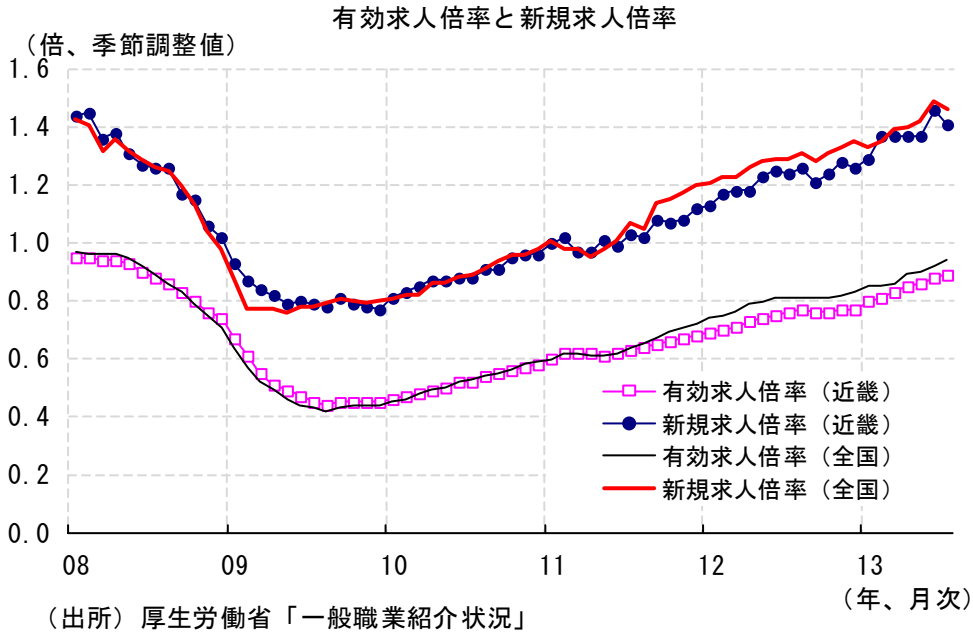
(年、月次)

3. 雇用 ～緩やかに持ち直している

○7月の近畿の完全失業率は3.8%と前年差1.1%ポイント低下した。雇用者数は前年差23万人の増加、就業者数は同15万人の増加となり、完全失業者数は同10万人減少した。業種別(2013年4~6月期)に雇用者をみると、建設業が減少している一方で、卸小売業、医療・福祉、サービス業(医療福祉以外)などが増加した。雇用情勢は緩やかに持ち直しており、今後も持ち直しが続くと思込まれる。

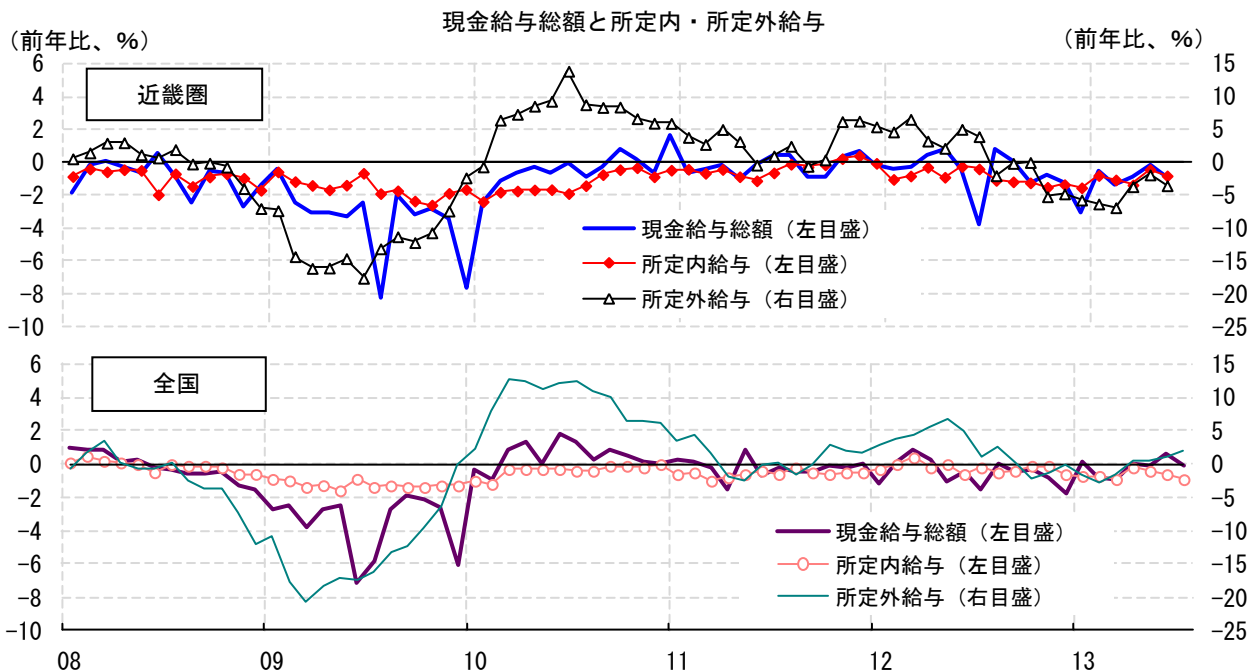


○7月の近畿圏の求人動向は、有効求人数が前月比-0.6%と減少、有効求職者数が同-1.8%と減少し、有効求人倍率は0.89倍（前月差+0.01ポイント）と小幅上昇した。有効求人倍率に先行する新規求人倍率は1.41倍と7ヶ月ぶりに低下した。新規求職申込件数が前月比+2.6%と6ヶ月ぶりに増加し、新規求人数が同-0.8%と2ヶ月ぶりに減少した。

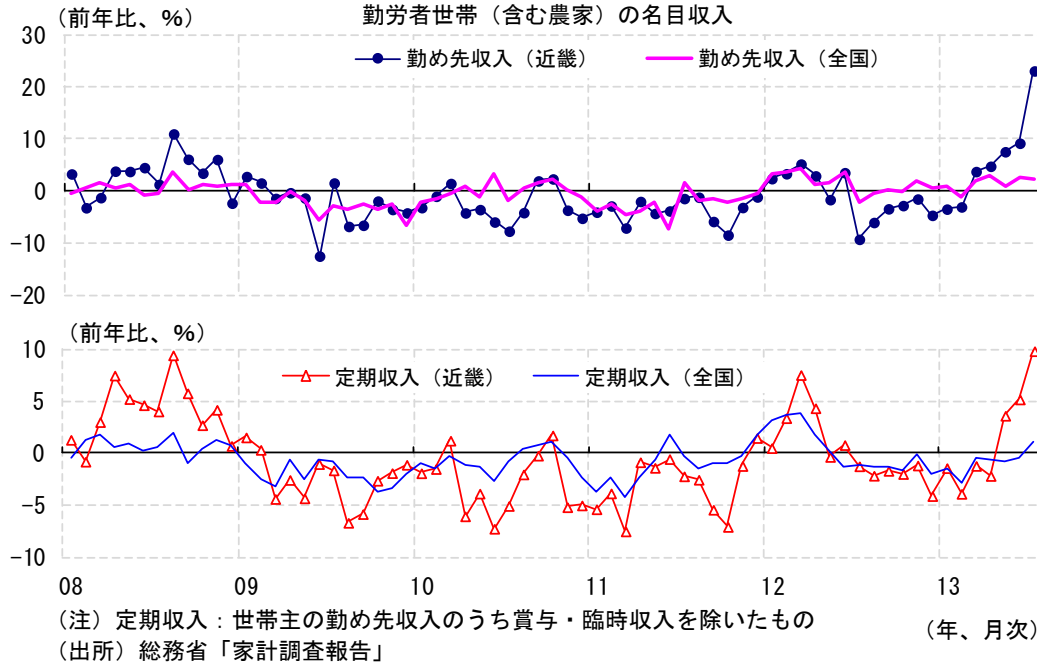


4. 賃金 ～弱含んでいる

○5月の近畿圏の現金給与総額は、前年比-0.9%の26.3万円と9ヶ月連続で減少、定期給与は同-1.0%と12ヶ月連続で減少した。なお、6月の現金給与総額は和歌山県を除く2府3県ベースで同-2.4%と減少が続いている。近畿圏の賃金は弱含んでいる。今後も企業の人件費抑制姿勢が続くため賃金は弱含みで推移するものの、雇用の緩やかな持ち直しを背景に徐々に下げ止まってくるだろう。

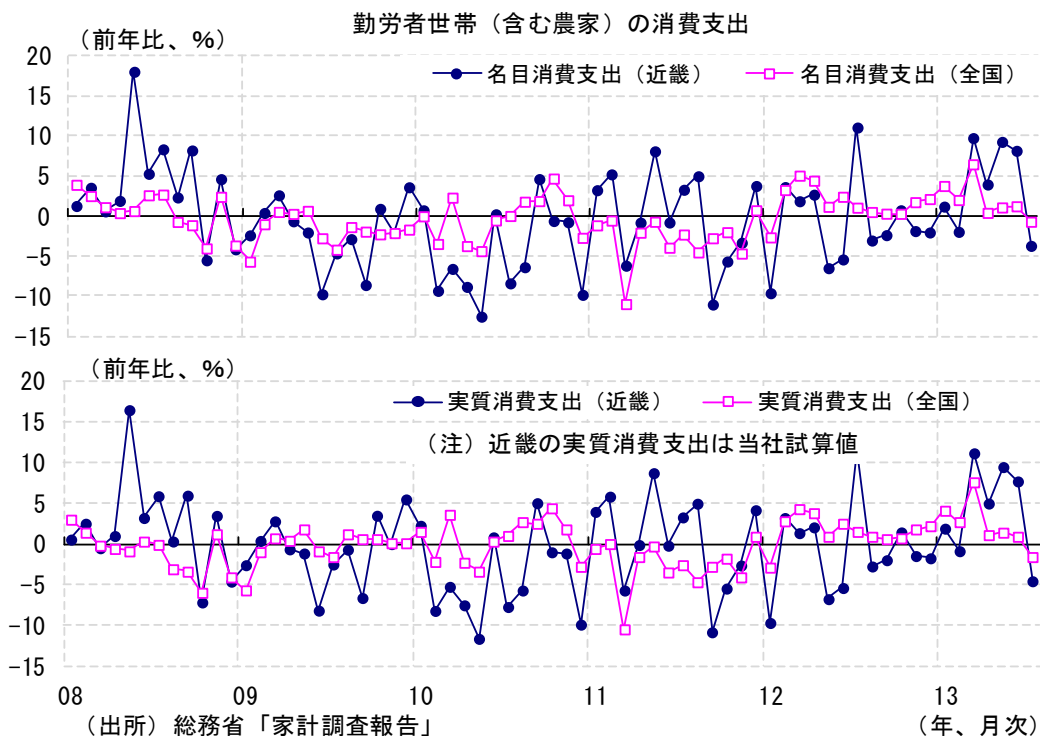


○家計調査によると、7月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の勤め先収入は前年比+23.2%の58.6万円と、5ヶ月連続で増加した。内訳をみると、世帯主収入が同+18.2%の51.5万円と5ヶ月連続で増加、世帯主の定期収入が同+9.9%の36.8万円と3ヶ月連続で増加した。また、7月の賞与も同+45.9%の14.3万円となった。

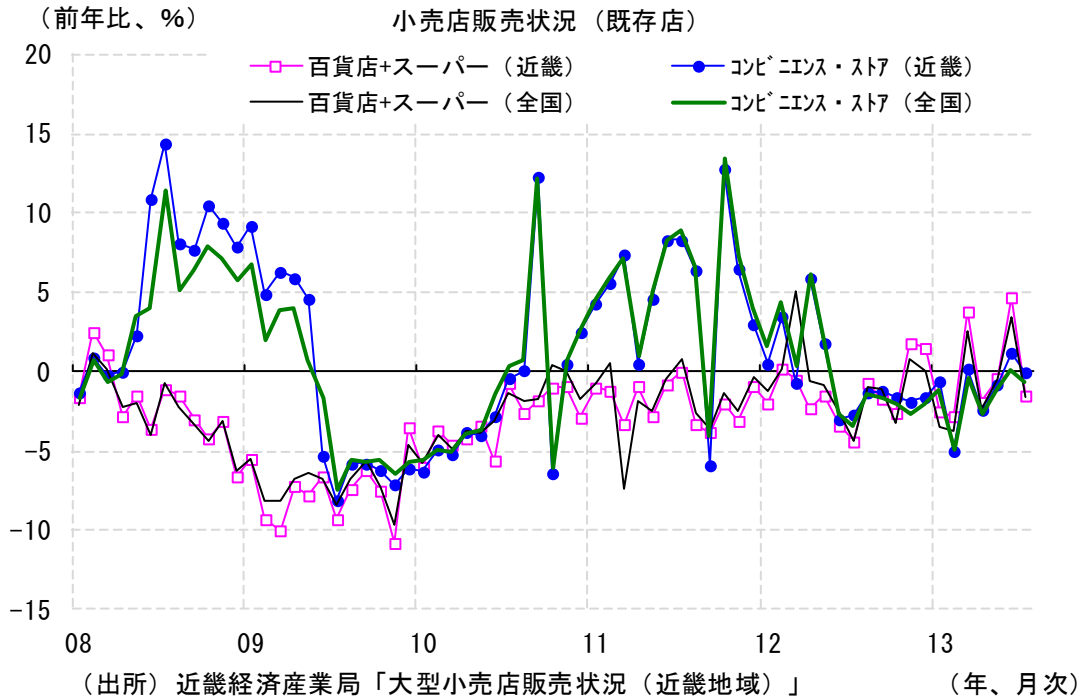


5. 個人消費 ～緩やかに持ち直している

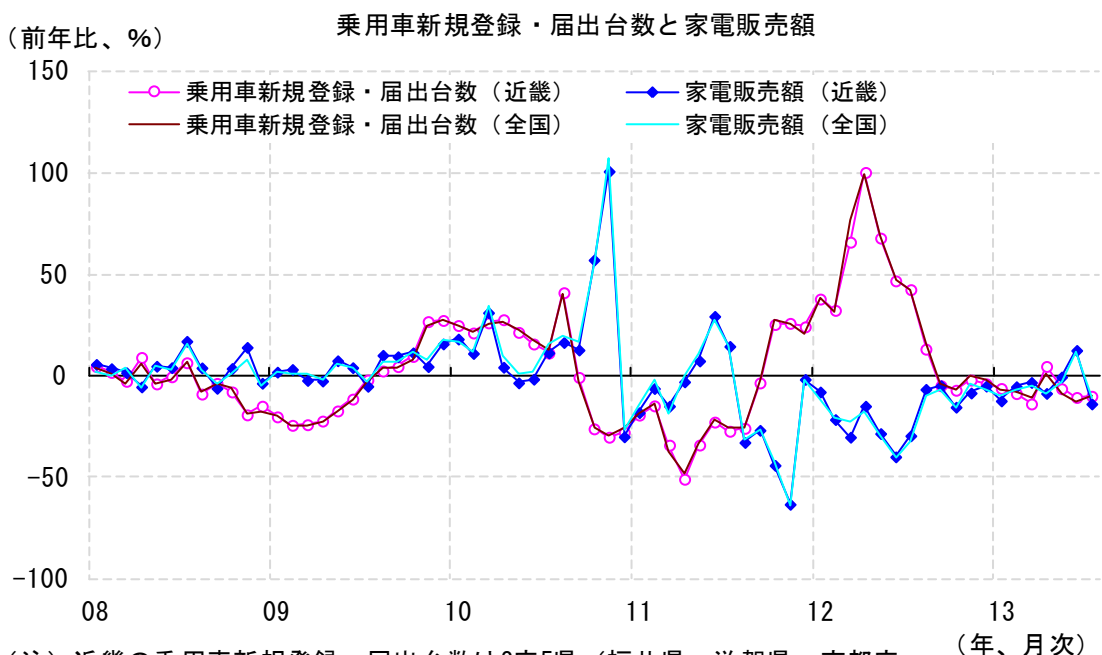
○家計調査によると、7月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比-3.7%と5ヶ月ぶりに減少した。セールスの開始が6月に前倒しされたことなどにより、7月単月の数字はマイナスとなったが、個人消費は、均して見れば緩やかに持ち直している。雇用所得環境の一部に持ち直しの動きがみられる中、個人消費は、マインド面の改善もあって緩やかな持ち直しが続くと思込まれる。



○7月の近畿地区の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は、既存店ベースで前年比-1.5%と2ヶ月ぶりの減少、全店ベースで同-0.4%と3ヶ月ぶりの減少となった。セール開始が6月に前倒しとなったこと、日曜日が前年より1日少なかったことが影響した。一方、コンビニエンス・ストアの販売額は既存店ベースで同-0.0%と2ヶ月ぶりに減少、全店ベースで同+5.0%と5ヵ月連続で増加した。

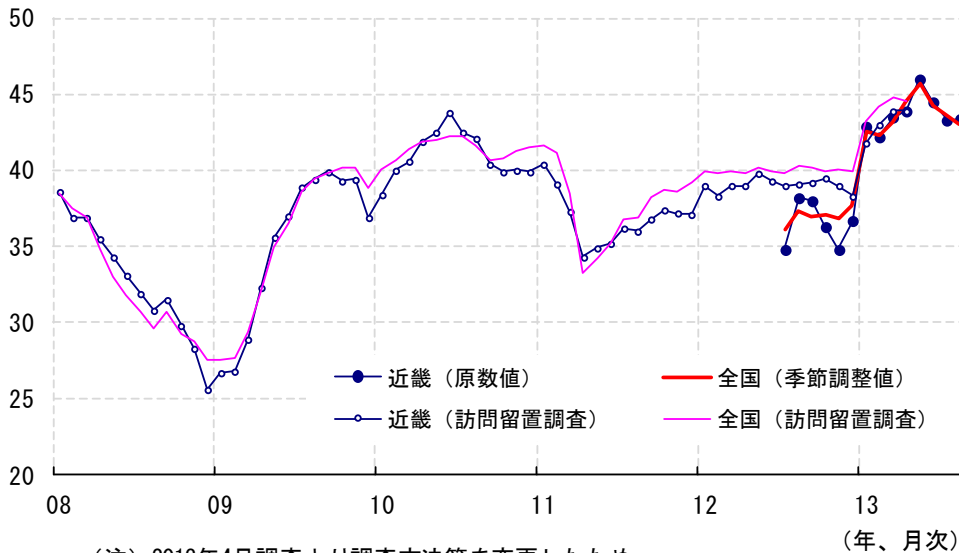


○7月の近畿地区の自動車販売台数は前年比-10.0%と3ヶ月連続の減少となった。自動車販売をけん引してきたエコカー補助金が昨年9月21日申請分で打ち切りとなった後、今年4月を除いて減少が続いている。また、7月の近畿地区の家電販売は、前年比-13.8%と2ヶ月ぶりの減少となった。デジタルカメラ、掃除機などが増加したものの、テレビ、パソコン、携帯電話、エアコンなどが減少した。



○消費者マインドを表す指標とされる消費者態度指数（近畿、一般世帯、原数値）は、8月は前月差+0.1%ポイントの43.4と3ヶ月ぶりに上昇した。消費者マインドは昨年末から急ピッチで上昇してきたが、株式市場の先行きなど不透明感も増してきたこともあって改善が一服している。ただ、景気が持ち直しつつあることから、上昇が一服したものの、今後も高い水準を維持しよう。

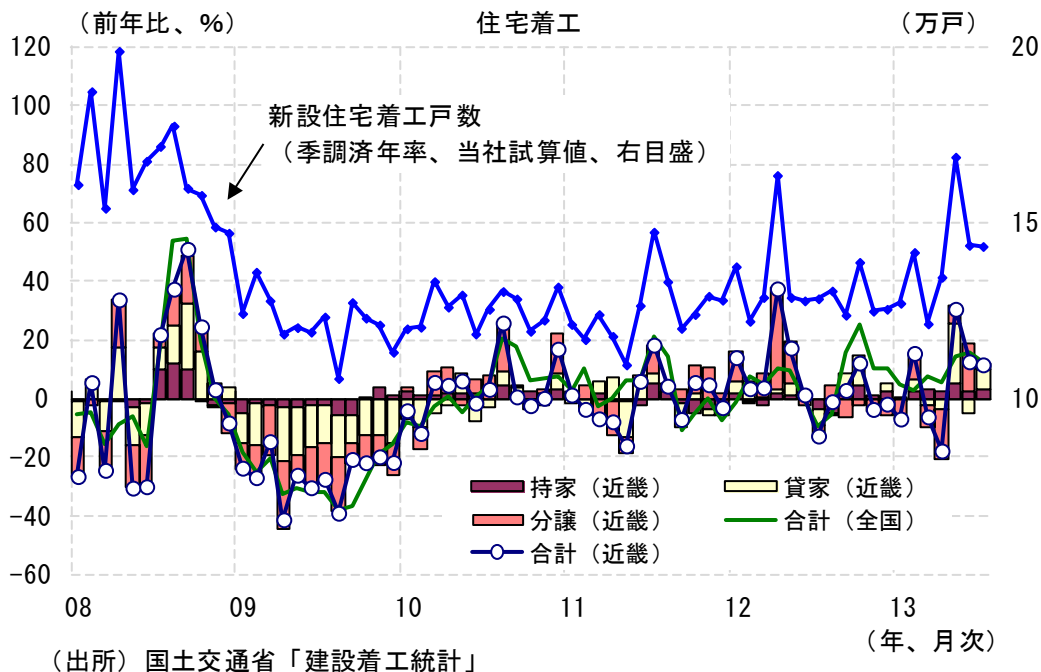
消費者態度指数（一般世帯、原数値）



(注) 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
 郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。
 (出所) 内閣府「消費動向調査」

6. 住宅投資 ～緩やかに増加している

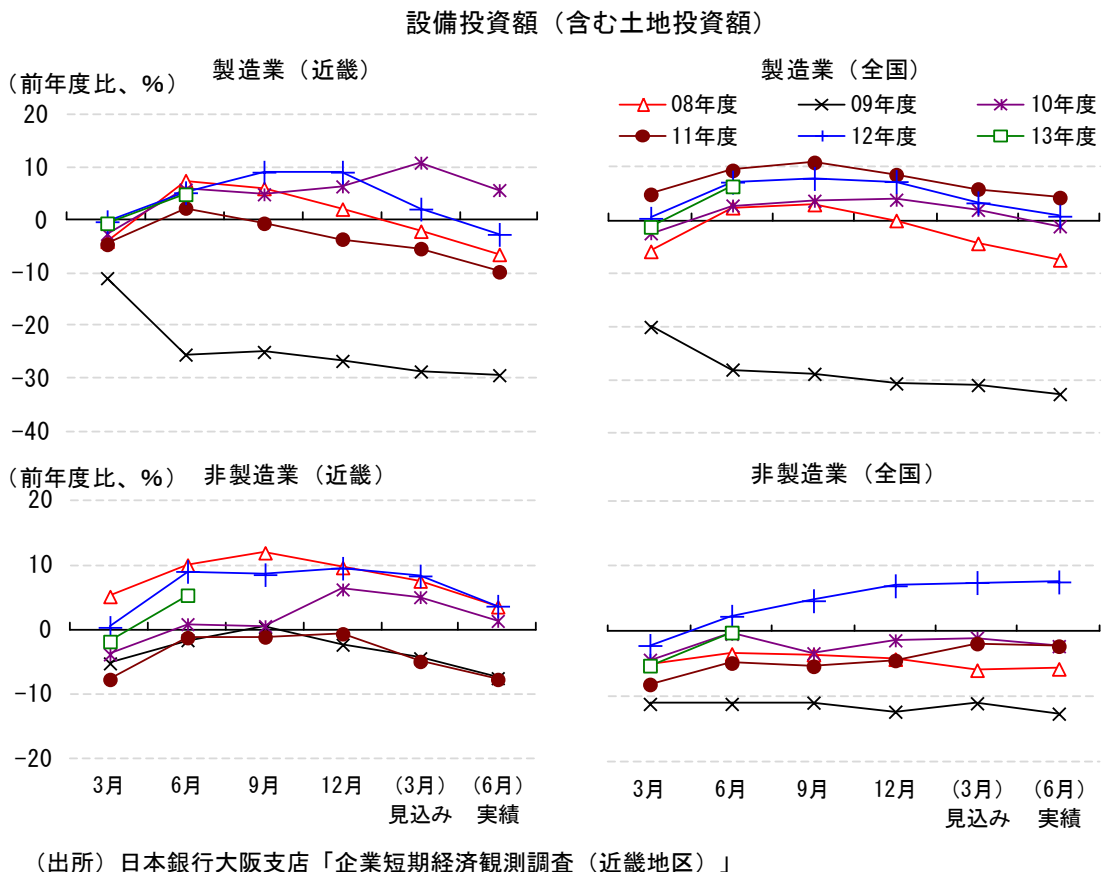
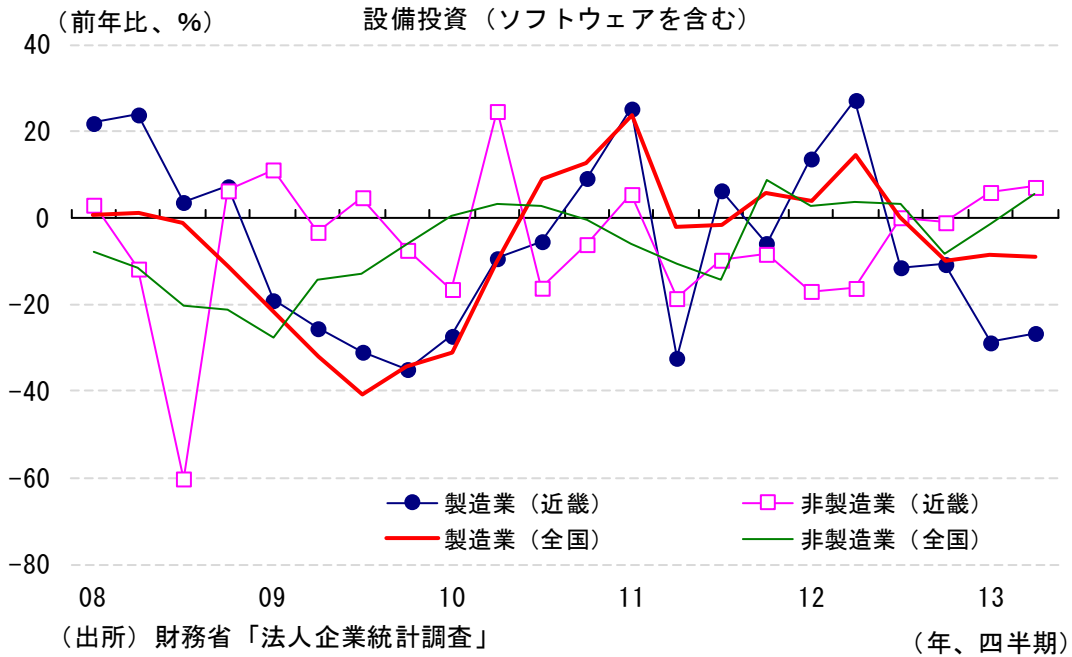
○7月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比+11.6%の12,280戸となり3ヶ月連続で2桁増となった。貸家持家、分譲のいずれも増加した。季調済戸数は年率14.3万戸と前月とほぼ同水準であった。金利先高観や来年の消費税率引き上げが着工の増加に影響している。この影響はしばらく続くため、今後も、振れを伴いながらも、均してみると緩やかな増加が見込まれる。

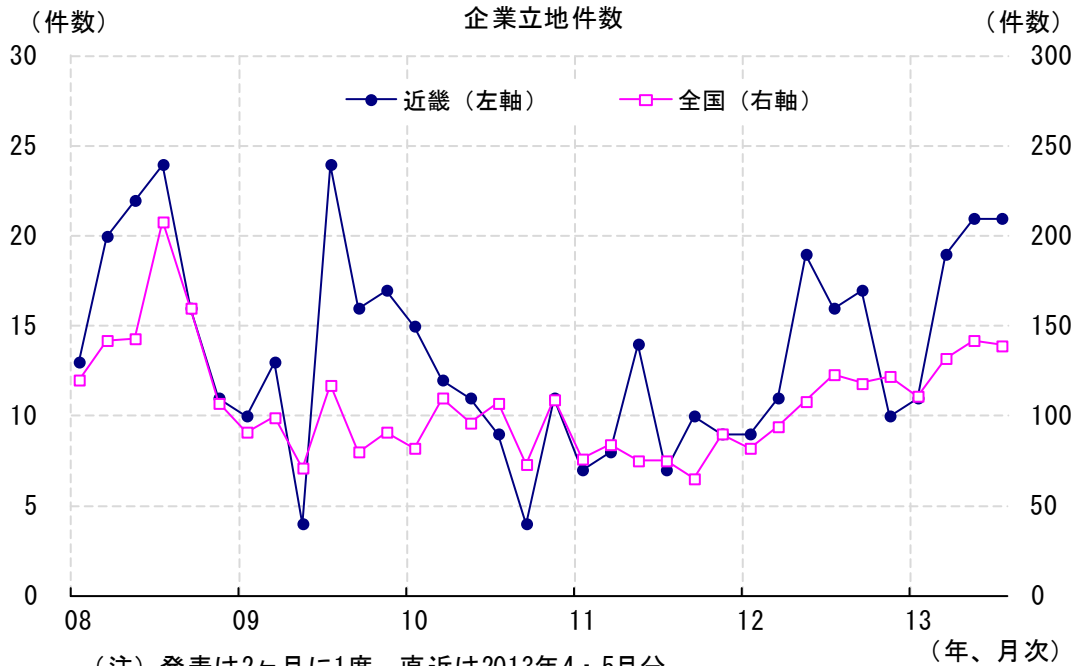


(出所) 国土交通省「建設着工統計」

7. 設備投資 ～減少している

○2013年4～6月期の関西の大企業の設備投資（ソフトウェアを含む）は前年比-10.0%と4四半期連続で減少した。非製造業は同+7.2%と2四半期連続で増加したが、製造業は同-26.5%と4四半期連続で減少した。日銀短観6月調査では、13年度は製造業で同+4.9%、非製造業で同+5.3%の計画となっている。

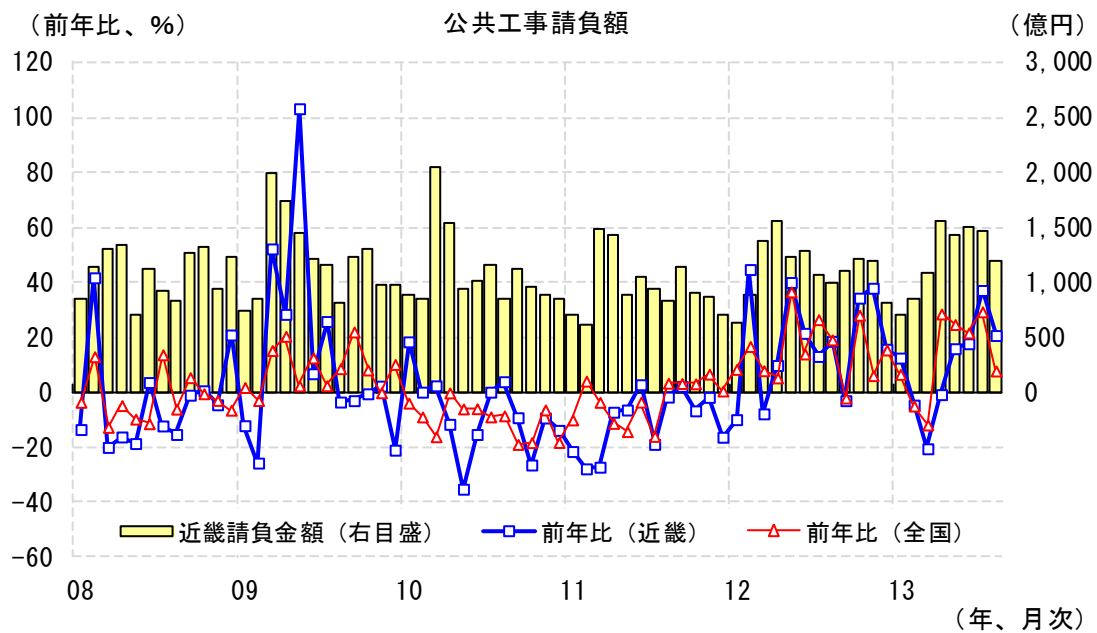




(注) 発表は2ヶ月に1度。直近は2013年4・5月分。
 (出所) 日本立地センター「産業立地」

8. 公共投資 ～増加している

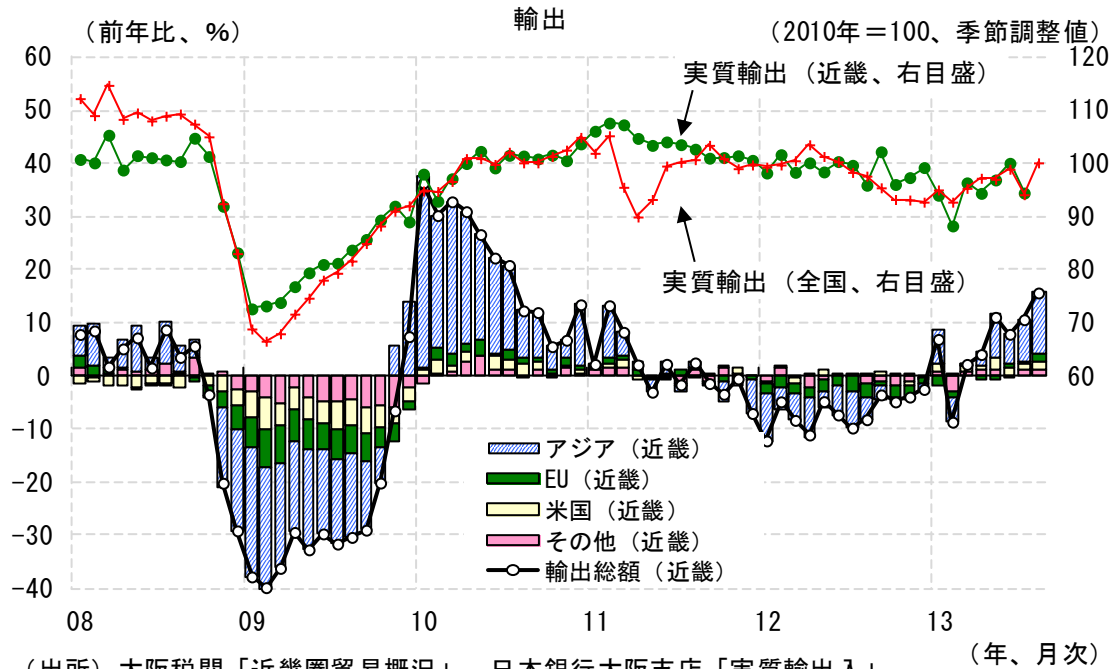
○8月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比+20.8%と4ヶ月連続で増加した。都道府県別では京都を除く1府4県で増加、発注者別でも、国、独立行政法人、都道府県、市区町村、地方公社で増加した。今後も、引き続き12年度補正予算による投資の増加が見込まれるため、増加基調での推移が見込まれる。



(出所) 北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)

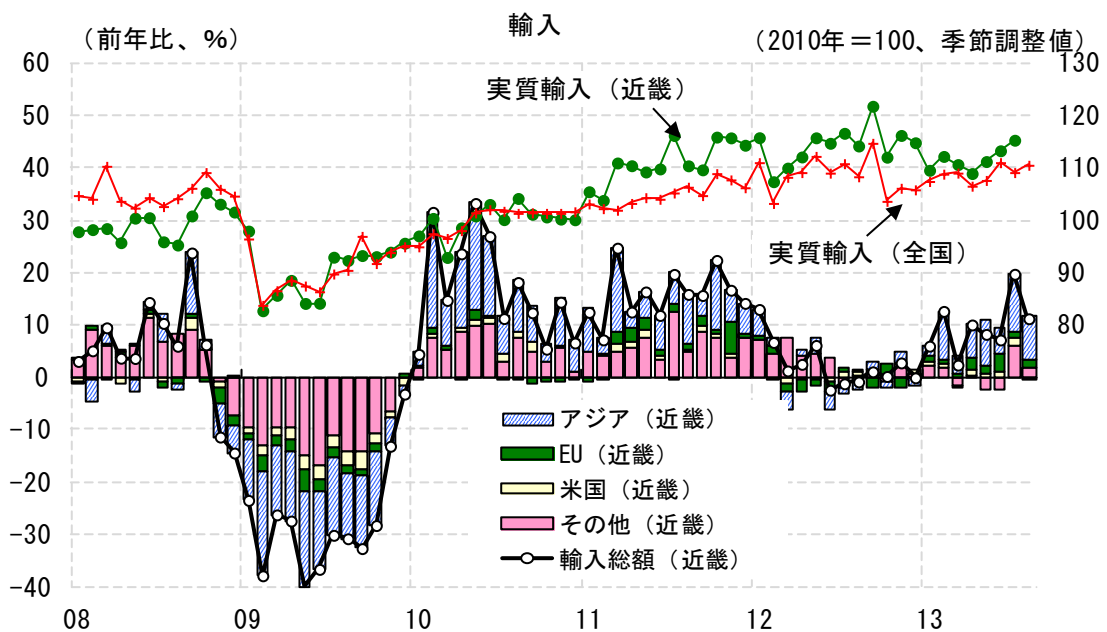
9. 輸出入 ～輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい

○7月の近畿地区の実質輸出は前月比-5.6%と3ヶ月ぶりに減少した。一方、8月の輸出額は前年比+15.7%の1兆2,570億円と6ヶ月連続で増加した。地域別ではアジア向け輸出の伸びが全体の増加に寄与した。財別では半導体等電子部品、鉄鋼、有機化合物などが増加に寄与した。今後の輸出は、海外経済の緩やかな回復が続く中、持ち直しが見込まれる。



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」

○7月の近畿地区の実質輸入は前月比+1.8%と3ヶ月連続で増加した。また、8月の輸入額は前年比+11.2%の1兆2,479億円と8ヶ月連続で増加した。地域別ではアジア、EUなどで増加した。財別では石炭、油脂、非鉄金属鉱が減少する一方、衣類、天然ガス、原油及び粗油などが増加した。今後は数量ベースでは横ばいを見込むが、円安の影響もあり金額ベースは増加しよう。



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」

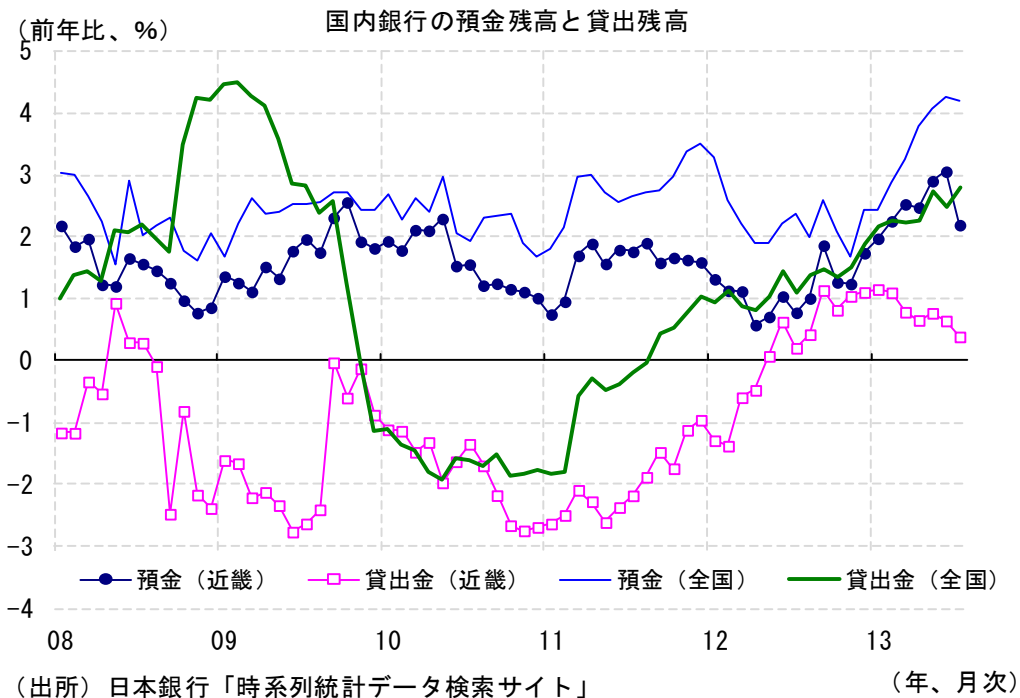
10. 物価 ～消費者物価は緩やかに上昇

○近畿圏の消費者物価は緩やかに上昇している。7月は、総合で前年比+0.7%と2ヶ月連続で上昇し、生鮮食品を除く総合で同+0.6%と3ヶ月連続で上昇した。一方、食料・エネルギーを除く総合では同-0.2%と下落が続いた。家計の雇用所得環境は一部持ち直しの動きがみられ、川下の物価の下落圧力が緩和される一方、川上での物価上昇圧力が増してきている。



11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

○7月の近畿地区の預金残高（国内銀行ベース）は、前年比+2.2%の103兆円となった。定期性預金は前年比で減少が続いているが、要求払預金が増加している。一方、近畿地区の7月の貸出残高（国内銀行ベース）は、同+0.4%の58.2兆円と15ヶ月連続で増加した。日銀大阪支店では、住宅ローンの増加などが貸出増加の背景とみている。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	↗	輸出	全国	→	☁	↗
	東海	→	☁	→		東海	→	☁	↗
	関西	↗	☁☔	↗		関西	↗	☁☔	↗
個人消費	全国	↗	☁	↗	輸入	全国	→	☁	↗
	東海	↗	☁	→		東海	→	☁	→
	関西	↗	☁	↗		関西	→	☁	→
住宅投資	全国	↗	☁	↗	生産	全国	↗	☁	↗
	東海	↗	☁	↗		東海	↘	☁☀	→
	関西	↗	☁	↗		関西	↗	☁☔	↗
設備投資	全国	→	☁	↗	雇用	全国	↗	☁	↗
	東海	→	☁	→		東海	→	☁	→
	関西	↘	☁☔	→		関西	↗	☁	↗
公共投資	全国	↗	☁	↗	賃金	全国	→	☁☔	→
	東海	↗	☁☔	↗		東海	↗	☁☔	→
	関西	↗	☁☔	↗		関西	↘	☁☔	→



- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は9月3日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		8月のコメント	9月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直している	持ち直しが一服している
	関西	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	減少している	減少している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6. 住宅投資	全国	増加している	増加している
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	緩やかに増加している	緩やかに増加している
7. 設備投資	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	増加している	増加が一服している
	関西	減少している	減少している
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加基調で推移	増加基調で推移
	関西	増加している	増加している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直している、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい
	東海	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい
	関西	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価、消費者物価とも緩やかに上昇	国内企業物価は上昇、消費者物価は緩やかに上昇
	東海	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
	関西	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加

（注）シャド一部分は前月と比較して見方を変更した項目（11. 金融、12. 倒産を除く）

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と東海地区（グラフで見る東海経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。